



世界一短い昔話

昔話 世界一短い昔話

「むか~し むかし、あるところに
おじいさんとおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山へ芝刈りに
おばあさんは川へ洗濯に行きました。
おばあさんが川で洗濯をしていると
大きな桃が ドンプラコ ドンプラコ と流れてきました…
が おばあさんはそれを 無視しました。」



この昔話はとても大切なことを教えてくれます。それは自ら動かなければそこで終わりということ。結果が出る人と出ない人の違いはここにあります。みんなやればいいことを薄々知っているんです。でも、やってない。

いつもいつも、やろうと思っているだけでやらない。

だから、わからない、だから、変わらない。

やればいいなと思っていることを実際に行動に移した瞬間に「知る」から「分かる」になる。

行動に移した瞬間に過去の自分と「分かれる」。それが、「分かる」ってことです。分かったら古い自分と分かれる。つまり「行動に移す」→「本当に分かる」→「新しい自分」ということです。そしてもう一つ名言を、

「一歩を踏み出せるなら、もう一歩も踏み出せる」
ドット・スキナー (フリークライマー)

行動して1つめの扉を開いたとき、はじめて、2つめの扉は開かれるのです。

毎日の生活の中で「あなたの“心”が何をしたくなかったか」に正直になろう。

例えば、集会の帰りに騒がしかったとき、伝えることができます。「切り替えよう。」と伝えたり、「後輩のお手本になろう。」と伝えたり…。何も言わずに自分だけ静かに教室に戻ることでもできます。無視することもできますね。さて、ここが分岐点、あなた自身に任されている部分です。誰かに言われるのではなく、自分から変わろう。変わっていきよう。